

はじめに 子どもの自立を育むためにはプライベートスペースのあり方だけでなく、家族のつながりとの関係で家族だんらん空間のあり方を検討することが大切であると指摘されているが、子どもの精神的な自立がだんらん室の使い方とどう関連しているかという点についての具体的・実証的な報告はすくない。今回、心理テストの手法を援用して子どもの発達段階別にこの点を分析・考察したので報告する。これらの結果は、新学習指導要領にもとづく住領域の教材研究に資する資料となるものと思われる。

方法 大分市内の近郊住宅地区の小・中・高校生 353名を対象にした質問紙法による調査 調査の時期 1990.9. 調査票回収の状況 回収率、有効票率ともに100%。

結果および考察 (1)子どもの精神的な自立は、だんらん室の物理的な条件(広さや起居様式など)によるというよりは、だんらん室の使い方にかかわっている。具体的には①「昨日の夕食が楽しかった」と答えたもの ②「だんらん室への滞在時間が1～2時間」のもの ③「だんらん室にいと気持ちが落ち着く」もの ④「だんらん室の雰囲気明るい」と答えたもの ⑤「家族がだんらん室に集まることが多い」もの ⑥「父母がだんらん室で仕事をする人が多い」ものでは積極的な自立の姿勢を示す。(2)子どもの精神的な自立は子ども室の使い方にも影響をうけるが、それよりもむしろだんらん室の使い方による影響の方が大きい。これらのことから(3)家庭科教育における、だんらん空間計画学習には、いわゆる住宅設計の手法というよりは、住み方学習を大切にすることが望ましいといえる。